

フブ・服部の中国通信

伝説の石、復権なるか！？

もう8月20日(執筆開始時)なのですね・・・年齢を重ねるほど、1年が過ぎるのが早くなるのを感じます。

ある人は言います。年齢を重ねるごとに一年が過ぎるのが早く感じるのは、同じ一年が自分の人生に占める割合が変化するからだ、と。10歳の1年は人生の10分の1を占めるが、30歳の1年は人生の30分の1、感覚的に比重が軽くなるというわけです。この理屈、私個人的には納得なのですが、皆様はいかがでしょう？

・・・さて、ガラにも無く哲学ぶってみました、今月は真面目に書こうという心構えの表れだにご理解頂ければ幸いです(笑)。

復権なるか！？

先日、中国からお客様がお見えになりました。AG-98の丁場オーナーです。

関西や中・四国の石材店さんに、墓石に用いる代表的な中国材は？と問えば、どの石材店さんも「AG-98」と答えるほどの伝説的、代表的石種です。

AG-98と言えば、数年前までは複数の小規模採掘業者が無計画とは言わないまでも、それぞれの思惑で採掘をしていた訳ですが、「このままでは早晚、山が詰まってしまう」と、一念発起！！

一つにまとめられたのが、今回来社された丁場オーナーです。そのニュースは業界紙等でも報じられ、石材業界全体が元気を失いつつある中、何億円とも言われる大胆な大規模投資を行い、国からAG-98の正規採掘権を取得して丁場整理を取組まれたことは記憶に新しいところです。

今後7~8年は誰はばかりことなく採掘が出来る、福建省唯一の丁場です。

石材業界に携わるものとしては寂しい限りですが、近年、福建省の石材丁場も多くは国からの正式な採掘許可を持っておらず「近くに鉄道が走る」、「都市部から近い」といった丁場から順に閉鎖を余儀なくされています。私は今までこれを「国からの政策であり、不可避の流れである」という風に捉えてきたのですが、丁場を整備し、正規の安全検査を通過すれば許可は下りる。これは新鮮な驚きでした。

・・・とは言え、日中両国ともに良いとはいえない市況下で、大規模投資をする度胸のある丁場経営者もあまりいません。立派だと思います。

脱線してしまいましたが、本題はというと採掘権取得のための話し合いや丁場整理に要した期間に落ち込んだAG-98の販売量をもう一度復活させるために販売に協力して欲しい、というものでした。

近年台頭してきた江西AG-98など、ライバル石種も多数ありますが、オリジナルAG-98の復権に当社としても微力ながら協力していきたいと思っております。秋口から年末年始にかけてこの石をめぐる状況に変化があるのは間違いないでしょう。**復権なるか！！**特にこの石に馴染みのあるお客様は少し注目していただければ、と思っております。

G654 と言えば . . .

何を思い浮かべられますか？ 平和でしょうか？ 長泰でしょうか？

もちろん墓石材としてそれらがメジャーであったことは事実です。ただ . . . 今一番量が取れている G654 はどれだ？ と聞かれたら、もしかしたら角美 654 かもしれません。恥ずかしながらこの石は **マンツーマン・マーク** できていませんでした。



ご覧下さい、このスケール。角美 654 の堀口の一つで、月産 1 万 m³ 以上、うち墓石材として使用できる A 材とされるものだけでも 500 m³ あるそうです。



従来の角美 654 と言えば写真左のような中目か、さらに粗目の「中国ラステン」と呼ばれるような石が主流でしたが現在の石は右のように目が詰まり細目系、これはこれで人気が出そうな目合いです。654 ですので玉やムラといった問題は多少ついて回りますが、安定した採掘量と企業努力の努力もあり、**最大限綺麗な商品、お値打ち感のある価格**でご提供させていただきます。

詳細は弊社営業員にお尋ね頂ければ、と思いますが、お見積り等の機会をいただければ幸いです。

KFC (ケンタ) IN チャイナ



はい、ありふれたファストフード、ケンタッキーフライドチキンでございます。
ただ、トレイの上に置かれた紙は別物・・・いえね、中国に一週間もいるとこういうありふれたファストフードが恋しくなるんですよ、本当に・・・
と、言うわけで厦門空港にて中国式ケンタッキーフライドチキンを試してみたのですがこれが結構高い！！ このセットだけで日本円にして 1,100 円程度はしました。中国の給与水準はまだ日本の 1/2 弱ぐらいであることを考えれば、ランチとしては結構な金額です。おそらくは米ドルの価格を基準に値段を出しているからだと思いますが・・・
そしてこの値段まだ上がるかもしれません。
ご存知の方も多いと思いますが、先日人民元の対ドルレート切り下げが発表されました。輸出業である中国の石屋さんからすれば市況の悪い中ようやく差した光明、と言える内容ではありますが(商品代金として支払われた米ドルを人民元に換金する際より多くの人民元が得られるので)、中国国内の景況が悪化しているのを示す数字でもあるため手放しに喜んでもいられないようです。
この切り下げのニュースを聞いた際「為替分値段もうちょっと下がらないかな〜？」と知り合いの社長さんに言ったところ睨まれたような気がするのは気のせいだと良いな、と思う今日この頃(笑)

さて、いかがでしたでしょうか？

来月は約三ヶ月ぶりに中国に行きます。次号ではより新鮮な情報をお届けできれば、と思いますので、またお付き合いくださいませ。

それではまた来月お会いしましょう、再見。あ、9月1日になった(笑)